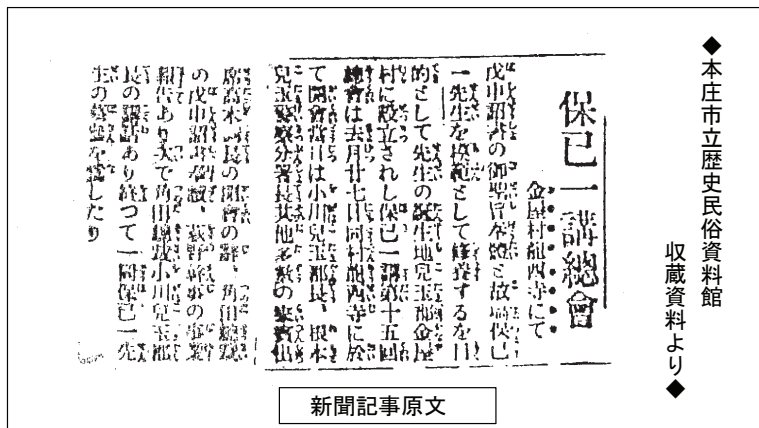


新聞記事から見た塙保己一の顕彰活動

今回紹介する新聞記事は、東京日日新聞の埼玉版に大正十年に掲載されたなかから「塙保己一」に関連した記事を抜粋したものです。

※

※東京日日新聞(とうきよくにちにしんぶん)◇現在の『毎日新聞』(東京)の前身で、明治五年二月二十一日に創刊された東京発の日刊紙



新聞記事原文

塙先生を模範として、修養することを目的として設立された保己一講。その第十五回総会が龍清寺にて、開催されたことを伝える内容です。

ほきいちこうそうかい
保己一講総会

かなやむらりゅうせいじ
金屋村龍清寺にて

ほしんしょうしよごせいしほうたい
戊申詔書御聖旨奉体と故塙
ほきいちせんせい もはん
保己一先生を模範として修養

するを目的として、先生の
たんじょうちこだまぐんかなやむら
誕生地児玉郡金屋村に設立さ

れし保己一講。第十五回総会
ほきいちこう だいじゅうごかいそうかい
は

去月廿七日同村龍清寺に於
きよげつにじゅうしちにちどうそんりゅうせいじ
て開会。当日は小川児玉郡長、

ねもとけいさつづんしよちょう そのほかたすう
根本警察分署長、其他多数の

らいひんしゅつせき たかぎこうちよう
来賓出席。高木講長の開会の

じ、つのだそうさい ほしんしょうしよほうじん
辞、角田総裁の戊申詔書奉読、

おぎのかんじ じきようほうごく
荻野幹事の事業報告あり、次で

つのだそうさいおがわこだまぐんちよう
角田総裁小川児玉郡長の講話

あり。終つて一同保己一先生の

おわ いちどうほきいちせんせい
墓参を為したり。(大正十年三

ぼさん な
月四日)

月四日)

◎原文の誤字は正しい文字に、旧字体は新字体に訂正してあります。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会の会員を募集しています。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では塙保己一先生の遺徳顕彰し、幅広い啓発活動を行っています。会員のみなさまの日頃のご協力に感謝申し上げます。

塙先生顕彰推進のため今年度も会費の納入につきまして、よろしく願いいたします。

みなさまのご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

年会費 個人会員 一口 千円、賛助会員(団体) 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館(セルディ) 児玉公民館(アスピアこだま内)で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます(ご希望の際には、下記へご連絡ください)。



発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内

所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会報誌

第35号

令和元年9月号



顕彰会総会にて盲導犬協会の職員（右）とユーザー（中央）の方が、盲導犬との生活や訓練の様子を語りました。

ごあいさつ

暦の上では“秋”ですが、まだまだ暑さが続く今日この頃です。会員みなさまにおきましては、ご健勝のことと拝察いたします。

本庄市は、盲目の国学者塙保己一の生誕の地であり、みんなで育む安心・共生のまちづくりを基本理念の一つとして障害者と健常者が支え合い、いきいきと暮らせるまちづくりを目指してきました。その結果、パラリンピック出場を目指す5人制サッカーのトルコ代表チームのホストタウンを努めることになりました。

埼玉の和の文化の魅力を国内外に発信する「埼玉 WABI SABI 大祭典2019」（埼玉県主催）が、10月13日・14日に大宮公園で開催されます。今年は、本庄市も参加し、「塙保己一」をトルコ共和国とともに紹介することになりました。顕彰会としても、これを一つの契機として塙保己一の事績を海外にも広めていく活動を推進していきます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

会長 吉田 信解

塙先生の遺徳を偲ぶ 遺徳顕彰祭にぜひご参加ください

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では毎年、塙保己一の命日である9月12日に遺徳顕彰祭を行っています。この催しは、祭壇に飾られた塙保己一の遺影に対し、その遺徳を偲び来場者全員で菊の花を捧げるものです。

本年も下記のとおり開催いたしますので、皆さまのご来場をお待ちしております。会員以外の方もご参加いただけます。

日 時 9月12日（木）
午後2時 開式
(午後1時30分から受付)
内 容 主催者・来賓による献花
来場者全員による献花
記念公演 講談師 神田 山緑 氏
演 目 「奉行と検校」



|| 神田山緑氏プロフィール ||
異例の速さで真打昇進を果たし、全国15か所の、講談教室を主宰。講談を通して「語り部」の普及活動を展開中。



昨年の授賞式の様子

第13回塙保己一賞が開催されます

日時: 12月14日(土)午後1時～
場所: 児玉文化会館 セルディホール

郷土が生んだ偉人「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方や障害者を献身的に支援している方を表彰する「第13回塙保己一賞表彰式」を開催します。(埼玉県主催・本庄市共催)。

表彰式のあとには、障害を持った方による記念コンサートや講演が開催されます。

○令和元年度顕彰会総会を開催しました

5月25日(土)に令和元年度総会を開催しました。平成30年度事業・決算報告や令和元年度事業案等の審議のほか、没後200年の記念事業として「塙保己一物語(仮称)」の小冊子発行の途中経過が報告されました。

総会後には、昨年度塙保己一賞の貢献賞を受賞した公益財団法人日本盲導犬協会から講師をお招きして「盲導犬の役割と盲導犬ユーザーの生活」と題して講演が行われました。講演後には、活動の普及のため、盲導犬と一緒に募金活動が実施され、たくさんの善意が集まりました。



群書類従の版木を保管する公益社団法人「温故学会」から「塙保己一 ことども」と題した小冊子が刊行されました。温故学会のご協力により、掲載させていただくことになりました。子供からお年寄りまで、読みやすくわかりやすいお話となっております。

塙保己一 ことども

(提供：公益社団法人 温故学会)

第五編 名前は、「ほきいち」か「ほきのいち」どちら？

塙保己一の読み方について、「ほきいち」あるいは「ほきのいち」と読む場合があります。結論から言うとどちらも間違いではありません。では、どうして二通りの名前が存在するのでしょうか？

保己一は、十五歳で当道座に入門し名前を「千弥」と改めます。その後、十八歳で衆分に昇進した時、名前を「保木野一」としています。これは、保己一の故郷である「児玉郡保木野村」からとっています。その後、三十歳で勾当に進むと塙姓を称し、名を保己一とあらため、ここに塙保己一が誕生します。このように十二年間に及び「保木野一」（ほきのいち）と呼ばれていた時期があり、若い時から親交があった人からこのように呼ばれたのでしょうか。友人の大田南畝は著書に「ほきいち」と書いています。しかし、保己一人は「ほきいち」であろうと「ほきのいち」であっても特段気にしなかったようです。

保己一について最初に書かれた書物は、明治二十五年、渡邊知三郎が「塙検校伝」を出版したときで、ここに「ほきのいち」の名前が出てきます。これがもとなり以降の書物に使われるようになります。

しかし、昭和の時代になると、森銑三の考証、さらに太田善麿の『人物叢書 塙保己一』によって「はなわほきいち」という名前が定着しました。



齊藤幸一氏

本庄市立図書館児玉分館で「塙保己一コーナー」を常設



本庄市立図書館児玉分館では、図書館所蔵の「塙保己一」関連の本や記念館のパンフレット、ポスター等を飾って常設展示を行っています。また、テレビ紙芝居「塙保己一ものがたり」のビデオ上映も行っています。いつでも楽しめるコーナーとなっていて、展示されている本は、貸し出しできますのでご利用ください。

開館時間：午前9時30分～午後6時15分

休館日：毎週月曜（祝日の場合は翌日）、毎月月末日（土、日、月の場合は翌火曜日）、年末年始、特別整理期間